

特定非営利活動法人 日本免疫学会
2025 年度 前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	安藤 雄太郎	会員番号	0036501		
申請者の所属・職名	昭和医科大学 歯学部 口腔生化学講座				
出席会議名	The 7th Penn Periodontal Conference				
発表論文タイトル	Neutrophil–osteogenic cell crosstalk promotes inflammatory bone damage				

実施結果:

このたびは、2025 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選出していただき、誠にありがとうございました。選考にご尽力くださいました岸本忠三先生、選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。

本アワードのご支援により、2025 年 7 月 28 日～8 月 1 日に米国フィラデルフィアのペンシルベニア大学で開催された第 7 回 Penn Periodontal Conference に参加いたしました。本会議は、2 年に一度、口腔医学分野の第一線で活躍する研究者が世界各国から集い、最新の研究成果の発表と討議を通じて国際的な研究交流を促進する学術集会です。4 日間にわたるプログラムでは、免疫学のみならず、微生物学、再生医学、バイオインフォマティクスなど多様なトピックに関する発表が行われました。100 名程度の研究者が連日同じ会場に集い、発表と議論を重ねる中で、最前線の知見に触れるとともに、自身の研究の位置づけを客観的に捉え直す貴重な機会となりました。

私は同会議において「Neutrophil–osteogenic cell crosstalk promotes inflammatory bone damage」と題し、大学院在籍中に行った研究の成果を発表いたしました。本研究は、マウス歯周炎病変のシングルセル解析および遺伝子改変マウスを用いた検証により、好中球が Oncostatin M 産生を介して間葉系細胞の RANKL 発現を誘導し、その結果として破骨細胞形成と骨破壊が促進されることを示したものです。英語での口頭発表には不慣れな点もありましたが、多くの有益なご質問をいただき、論文発表後にさらに検証すべき課題が一層明確になりました。論文化を一つの通過点と捉え、引き続き検証と報告を重ねてまいります。

会期中には、University of Pennsylvania の George Hajishengallis 先生と面会し、研究室を訪問する機会にも恵まれました。口腔免疫分野を牽引される先生の豊富な知見に裏打ちされた厳密かつ柔軟な研究姿勢に直接触れ、大きな刺激を受けました。また、同研究室に所属する大学院生やポスドクの方々とも懇談し、研究の進め方や日常的なディスカッションの様子を伺うなかで、海外の研究環境に身を置きながら研鑽を積むことの重要性を改めて実感いたしました。

歴史の面影を残す緑豊かな学舎の中で得た学びや経験を生かし、自身の研究の幅をさらに広げ、より質の高い研究成果を生み出せるよう精進してまいります。

末筆ながら、本アワードへの応募をご推薦くださいました高柳先生ならびに日頃よりご指導を賜っております塙崎先生に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。